

『 豊かかって何？～色々な価値観～ 』

学校名・名前・担当教科： 神戸市立白川台中学校・小林 英里佳（美術）
 実践教科： 総合的な学習の時間、T.C、道徳
 指導時数： 5時間
 対象学年： 中学2年生 対象人数： 140人

＜教師海外研修を通して感じたこと＞

教師海外研修に参加することによって、なぜ教師になったのか、生徒たちに伝えたいこと、自分にしかできないことは何かなど「原点」に戻って考えることができた。

サモアで感じたことは、「本当の幸せとは何だろうか」ということである。学校に教科書や文房具などの備品も十分でなく、床に座って一生懸命なまなざしで授業を受けているサモアの子どもたちを見て、日本の生徒たちにも「本当に大切なもの」について考えさせたいと思った。そして、サモアで活躍する青年海外協力隊員に出会ったこともとても刺激になった。熱い思いをもって、支援を必要としている国のために奮闘している姿を生徒たちにも紹介したいと思った。

教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

BEFORE

- ①サモアという国についての知識は全くなかった（どこ？という状態）
- ②開発途上国だから、きっと道端に物乞いの子どもとかホームレスがいたりするのかと思っていた。
- ③海外の経験（途上国含）は豊富なほうだが、表面の部分しか見ていなかった。

AFTER

- ①10日間、観光ではなく教育現場やJICAの支援の現場などを見学して、本当に必要な支援とは何かわかった。
- ②自給自足の生活や、家族のつながりが強いサモア人の暮らしを見て、うらやましく思った。幸せそうだと感じた。
- ③その国の表面的なものだけでなく、抱えている問題や、日本とのつながりを考えるようになった。

授業の詳細

1. カリキュラム

(1) 実践の目的/背景

私がサモアで感じたことや考えたこと、価値観が揺さぶられたことを、そのまま生徒たちにも感じてもらいたいと思い授業を構成することにした。授業の度に生徒の考えや感じるものが変わったり、揺さぶれるように少しずつ核心に迫るような授業展開にしたいと考えた。テーマは「価値観の違い」「豊かさ」「国際協力」である。

「価値観の違い」については、サモアの中高生にとってアンケート結果を、本校の2年生の答えと比較したり、現地の生活の様子などを紹介することによって考えさせた。今や、外国人の価値観だけでなく、他者の意見を受け入れられずに人間関係を構築することが苦手な生徒が多いので、みんな違ってみんないいことを伝えたいと思った。

「豊かさ」については一番考えさせたい部分だったので、サモアという国だけに絞らず、様々な国の暮らしを紹介し、自分にとって大切なものとは何かを考えさせた。

「国際協力」については、遠い小さな島国サモアと日本のつながりを知ってもらいたいと思い、ODAについて簡単に触れた。その後、青年海外協力隊員の活動について紹介し、自分たちもできる国際協力とは何かと考えさせた。

この教師海外研修で感じたこと、学んだことを私の中だけで消化するのは非常にもったいないと感じたため、同僚の先生方に事前研修を実施し、「豊かさって何？」の授業を、各クラスでおこなってもらった。授業案や教材などは私が用意し、展開などは先生方に任せることとした。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 サモアを知る サモアあるなしクイズ (In English)	<ul style="list-style-type: none"> ・ google earth を使って、サモアの位置を知る。 ・ プリントを用いて、グループでサモアあるなしクイズをする。(外国人講師と簡単な英単語を用いてゲーム感覚で) ・ サモアのイメージをについて感想を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ google earth ・ 写真 (パワーポイント) ・ 教材プリント
2時限目 サモアの問題点を知る フォトランゲージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループにわかれて、写真を見てサモアと日本の違うところを見つける。 ・ サモアの問題点とは何か考えさせる。 ・ グループで出た意見を発表させる。 ・ パワーポイントを使って答え合わせをする。 ・ 感想を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真 (パワーポイント) (グループごと) ・ 教材プリント
3時限目 サモアの文化に触れる ものランゲージ (In English)	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループにわかれて、サモア的生活用品を見て、何に使われているものか考えさせる。 ・ 簡単な英語を使って発表させる。 〈This is for~.〉 〈It' s very~.〉 〈You can use like this.〉 ・ サモアでとったアンケートと同じ内容の物をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真 (パワーポイント) ・ サモアのもの ・ アンケート

<p>4 時限目 豊かさって何？ ～色々な価値観～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サモア、ブータン、ボスニア、日本の4か国の暮らしの写真を並べ、比較して豊かだと思う順に並べさせる。 ・自分にとっての幸せとは何か、大切なものは何か考え、感想を書かせる。 ・サモアの学生と、自分たちのアンケート結果から、価値観の違いについてさらに考えを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材プリント（地球家族） ・ワークシート ・サモアと日本のアンケート比較プリント
<p>5 時限目 1人1人にできること ～国際協力について～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業のまとめとして「パパラギ」という本を読む。 ・日本を含む先進国の人と、南の島に暮らす人の価値観や大切に思うものは違うという事に気付かせる。 ・日本とサモアのつながりについて知る。（どのようなODAが行われているか。青年海外協力隊員からのメッセージ） ・自分にはどのような国際協力ができるのか考えて感想を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真（パワーポイント） ・ワークシート

2. 授業の詳細

1 時限目 「サモアを知る」
サモアあるなしクイズ

■目標

サモアという国について知る。
開発途上国のイメージの幅を広げる。

■内容

- ① サモアの位置を google earth で確認する。
- ② 開発途上国は世界中に何か国あるのか伝える。
- ③ サモアの位置、南の島、開発途上国という3つのキーワードのみ伝えて、サモアにあるか、ないかをグループで考えさせる。
- ④ 写真（パワーポイント）を見て答え合わせ。
- ⑤ サモアについてどう感じたか、感想を書く。



◎生徒の感想

- ・どこが途上国！？と思った。
- ・意外なものがあって意外なものがないのがびっくりした。
- ・心が優しい人がいっぱいいていい国だなあと思った。私も行ってみたい。
- ・とてもんびりしている国なんだなあと思った。このような国のように、日本も分け合いという心を持ってほしいと思った。

◎所感

中学1年生、2年生、3年生の全学年にこのあるなしゲームをさせてみたら、それぞれ違う学びがあったため、興味深かった。

1年生は、「開発途上国」という言葉もなじみがなく、いかに狭い世界で生きているのか実感した。2年生は、「開発途上国」についてのだいたいのイメージはあるものの、ほとんどがメディアなどで見る、アフリカの飢餓や貧困のイメージであったようだ。電気、水がないところが「開発途上国」と思っていたようだ。3年生は、開発途上国でも幸せそうに暮らしていることや、日本よりも家族のつながりが強くてうらやましいなどの気づきもあった。

感想を書かせたところ、ほとんどの生徒がサモアに行ってみたいなどの「プラス」のイメージであった。

2時限目 「サモアの問題点を知る」
フォトランゲージ

■目標

- サモアと日本の違いを見つける。
- サモアの抱える問題に気付く。



■内容

- ① 8種類の写真をグループに1枚配布し、まず日本と違うところを見つける。
- ② サモアの抱える問題点は何か、グループ内で考える。
- ③ グループごとに意見を発表する。
- ④ 写真（パワーポイント）を見て答え合わせをする。
- ⑤ 今回の授業で、サモアについてどうイメージが変わったか感想を書く。



【授業で使用了写真】



① 授業中の様子1



② 授業中の様子2



③ 職員室の様子



④ ホームルームの時間



⑤ 街中の様子



⑥ 授業中の様子



⑦食事の様子



⑧スーパーマーケット

◎生徒の感想

- ・日本では子供優先って感じがするのに、サモアは大人優先だと思う。そんなところが開発途上国といわれるのかなと思った。
- ・日本と違うところがたくさんあってびっくりした。ゴミが散乱しているのをなんとかしたほうがいいと思う。
- ・サモアが開発途上国である理由は、輸入に頼ってばかりで自国で作っているものがあまりないことが原因だと思う。
- ・サモアという国は比較的自然が残っている国なので、都市化を進めるのもいいと思うが、自然を残してほしいと思う。そのためにもゴミがココナツの皮のように自然に戻らないということに早く気付いてほしい。

◎所感

前回の授業では、サモアの表面的な、いわゆる「プラス」のイメージについてしか触れなかったのだが、今回はサモアの抱える問題点として「マイナス」のイメージを紹介した。前回には行ってみたいという生徒が大半だったが、ゴミだらけの街や天井が崩れた教室の様子などを見て、驚いた様子であった。そんな中でも、サモアの人々は幸せそうだとか、行ってみたいという意見も少なからずあったことには驚いた。生徒たちのサモアに対するイメージを揺さぶることができたことに関しては成功だったと思う。しかし、写真が多すぎたのでもう少し絞り込めばよかったと思った。

3時限目 「サモアの文化に触れる」
ものランゲージ

■目標

サモアの生活用品に触れる。
英語を使って生活用品の使い方を説明する。

■内容

- ① グループごとにサモア的生活用品を配布する。
- ② グループ内でこれはどのように使うものか考える。
- ③ 使い方の説明を英語で発表する。
- ④ 写真（パワーポイント）を見て答え合わせをする。
- ⑤ 残りの時間で、サモアの学生に行ったものと同じアンケートを実施する。

〈サモア的生活用品〉

- ココナツの葉でできたお皿
- ココナツの葉であんだうちわ
- ココナツの殻のコップ、ラバラバ（布）
- クリケットのボール、ムチ（儀式用）

Examples for presentation (例)

- This is for washing clothes. (これは服を洗つ時に使うものです)
- It's very hard. (これはとても硬いです)
★ heavy, soft, useful, beautiful, expensive...
- It's made of wood. (これは木でできています)
- You can use like this. (このように使います)
- You can use when it's raining. (雨が降った時に使います)



◎生徒の反応

過去2回の授業でサモアについての知識を得ていたせい、使い方をほぼ正しく考えて答えていた。英語での説明も、例文を示したので簡単にできた。

◎所感

アンケートの実施に時間をとったため、あまりゆっくり発表に時間が取れず、残念だった。アンケートは別の時間に実施すべきであった。もっと時間があれば、サモアのダンスなどのビデオも見せたかった。文化に触れる、という点では不十分だったかもしれない。

4 時限目 「豊かさって何? ~いろいろな価値観~」

■目標

- 外国の人々の価値観や生活の違いを知る。
- 外国の人々の価値観の違いに気づき、他者理解とともに自らの生活を振り返る。

■内容

- ① 「地球家族」という本の中から選んだ4か国、「サモア」「ブータン」「ボスニア」「日本」の暮らしの写真を比べて、豊かだと思順に並べる。
- ② その家族のエピソードも読み、考えを深める。
- ③ 自分の考えを発表する。
- ④ 本当の豊かさとは何か? GNH (国民総幸福量) についての紹介する。
- ⑤ 自分にとっての幸せとは何か、考えたことや感想を書かせる。



◎生徒の感想

- ・「経済的な豊かさ」と「人の心」は必ず比例するわけではないことも感じた。
- ・どこの国でも家族が集まるのが1番幸せなんだと思った。
- ・日本は何事もお金で解決しているように見た。私のにとっての幸せとは、「きれいでものに不自由せず、家族がいること」でした。でもそれは違うんじゃないかと今日の授業で思いました。そして、今私が思う幸せとは、「家族みんなが笑顔でいること」です。
- ・日本は自分のことしか考えていないから、もっと国のことについて考えないといけない。そしたらサモアみたいに「豊か」になれると思う。

◎所感

学年の先生方に事前に研修を行い、各クラスでこの授業を実施した。校内の教員に対し、開発教育について学び、実践する機会が提供できたことは、とてもありがたかった。

生徒の学びは予測していたよりも、深いところまで考えていたように思う。家族の大切さ、文化や国を大切に思う気持ちなど、日本に欠けている価値観にも気づけた生徒が多かった。やや難しい内容なので心配したが、やってよかったと思う。

5 時限目 「1人1人にできること」 ～国際協力について～

■目標

- サモアと日本のつながりについて知る。
- 自分が国際協力できることは何かを考える。

■内容

- ① 前回の授業のまとめとして、「パパラギ」という本の一部を抜粋して紹介する。
- ② 日本とサモアのつながりについて、写真（パワーポイント）で説明する。
- ③ サモアで活躍する青年海外協力隊員のメッセージビデオを見せる。
- ④ 青年海外協力隊の要請を紹介する。
- ⑤ 自分にもできる国際協力は何があるのかについて感想を書かせる。

◎生徒の感想

- ・先生の紹介で、（青年海外協力隊が）野球やバレーボールを教えるとかがあって「これだったら私にもできるんじゃないかな」と思った。
- ・私たちが実際現地に行ったり、募金したりするって難しいけど、そんな国があるってことを理解するのが大事なんじゃないかなと思った。
- ・サモアで日本人がいっぱい活躍してるのはめっちゃうれしい。
- ・困っている人に手を差し伸べてあげることはとても大切だと思う。世界中のみんなが笑顔になれるよう、これからもよく理解しあうことが1番だと思った。

◎所感

絵本「パパラギ」は予想以上に子供たちの心に響いたようで、続きを読みたいという生徒もいた。サモア人や途上国の人々が、私たち先進国の人々の時間に追われたり物に執着している様子を不思議に思っていることに対して、目から鱗だったようだ。こちらがよいと思ってやっている支援も、時には途上国の人のためになっていないのではないか、と考えた生徒もいた。

国際協力については、難しいテーマだったので、前もって朝の読書の時間に、国際協力についての本（1人1人にできること/国際協力機構）を1週間連続で読ませていた。その効果もあってか、「自分たちにもできる事はある」ということを考えてくれたように思う。

3. 成果と課題

計5回の授業を行って感じたことは、もっともっと生徒たちに様々な世界を見せてやりたいということであった。自分のことだけでなく、もう少し周りを見渡して広い視野で考えられるように、国際的に活躍できるような人に、そして、他者の気持ちを考えることができる人を育てていきたいと思った。

反省点は、5回の授業に伝えたいことを詰め込みすぎたことである。もう少し時間が取れば、国際協力についてももう少し掘り下げて考えさせたり、JICAから出前講座として青年海外協力隊OVの方に来てもらいたかった。これらは今後の課題である。

この5回で終わりではなく、来年度以降も引き続き開発教育について学び、他の国についての授業も紹介できればと考えている。後は、専門分野である美術科の方ではあまり今回の研修を活かしきれなかったのが、サモアのタトゥー文化などの授業も展開していきたいと考えている。

参考資料

- ・ 参考文献
「地球家族」TOTO 出版
「絵本 パパラギ はじめて文明を見た南の島の酋長ツイアビが話したこと」立風書房
「1人1人にできること」国際協力機構
- ・ 参考ホームページ URL
<http://www.jica.go.jp/> (JICA)

そう、いったいどれが私たちより豊かだろう。

自然の大きな力が作った物を、私たちよりたくさん持っているだろうか。

見回してごらん。遠く、空と海がひとつになるところまで。野鳩やハチドリやオウムたちが住むジャングル。ナマコや貝やエビ、そのほかの海の動物の住む入江。明るい朝とやわらかな砂の肌をもつ浜辺。ときには女神のようにほほえむ海。歪、歪の光を放つ大きな花を持ち、少しづつ色を覚える大空。まばら



しい物に満ちあふれているのではない。これらの物の上に、もっとたくさんの物をどうして作らなければならないのか。自然の大きな力が作ったすばらしいものがあるのに、パパラギはいつもたくさん新しいものを作ろうとしている。



パパラギはいつもたくさん新しいものを作ろうとしている。おかげで手ははれるが、顔は灰色になり、背中は曲がってしまった。そしてみんなが、新しいものをほしがり、あがめ、自分の前において歌をささげる。

パパラギは行く先々で、自然の大きな力がつくったものをこわしてしまっただと、こわした物を自分の力で生き返らそうとしているのだ。



パパラギの国には、自分の頭に火の筒を当てて、自分を殺してしまう人たちがいる。本当の話だよ。物がなければ死んだらどうがましだ。この人たちはそう考える。食事の皿のほかには何も持っていないけど、私たちならだれでも歌を歌って笑顔でいられるのに。



私はパパラギに呼びかけよう。近づくな。

他の人々より豊かになりたいという欲や、やたらに物を作ることや、なんにもならない知識など、そういうガラクタを持って私たちに近づくな。そんなものは私たちに必要がない。私たちは自然の大きな力からたっぷりいただいた美しい喜びで、じゅうぶん満足している。



自然の大きな力は、私たちが迷わないように、光で道を照らしてくれる。自然の大きな力が照らす光。それは「愛し合う心」「あいさつをいっしょにたくわえたら」のことである。

